



# ARIMASS Letter

[ Association for Risk Management System Studies ]

危機管理システム研究学会 2002年3月  
第8号

## 危機管理システム研究学会第2回年次大会開催にあたって

第2回年次大会実行委員長  
長濱 昭夫（桜美林大学）

第2回年次大会を5月25日（土）、町田市にある桜美林大学で開催させていただくことになりました。設立総会・第1回年次大会が開かれました成蹊大学と比べますと桜美林大学は東京のはずれに位置し、交通の便など会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、万障お繰り合わせの上、多数のご参加をお願い申し上げます。

今大会は別記プログラムのように、第1回に引き続き統一テーマを「21世紀の危機管理（in 桜美林）」とし、JISQ2001に関するパネルディスカッションと10件の研究発表によって21世紀の危機管理の種々相を浮き彫りにします。わが国で最近起きた一連の不祥事とその後の対応は、危機管理システムの構築どころか危機を（危機として）意識することすらできない経営者や官僚（ごく一部だとは思いますが）が存在することを如実に示しました。この分野で先進国といわれる米国においても、エンロン事件をきっかけとして世界五大会計事務所の一つである名門アンダーセンが、市場の信頼を失い経営危機に直面しています。このように、昨年の年次大会後に起こった火災事故・同時多発テロ・政官民の不祥事に未だに翻弄されている現状を考えれば、文字通り、「21世紀の危機管理」は始まったばかりといえるでしょう。第1回大会と同様、会場で活発な論議がなされることを期待しております。

ここで、当大学について少しお話をさせていただきたいと思います。桜美林大学は、創立者清水安三が宣教師として渡った中国北京で1921年に創立した崇貞学園をその歴史的母体としています。校名、桜美林は、学園が桜の林に囲まれ、また、清水が若き日に留学したのがOberlin Collegeであったところから名付けられました。桜美林大学には外と内を隔てる門や柵はありません。危機管理の観点からは問題がありますが、国や文化の違いにとらわれない人間であってほしいという創立者の願いがそこに込められています。学内にある建物も、会場となる徳望館をふくめ、学園の歴史や創立者の思いを反映した特徴のある名前が付けられております。

最後に、第2回年次大会が成功しますよう、会員の皆様のご協力を心からお願いいたします。

### 目次

第2回年次大会開催にあたって.....1	4つ目の分科会をスタート・分科会報告.....4
第2回年次大会プログラム..... 2	事務局からのお知らせ.....6

## 危機管理システム研究学会第2回年次大会プログラム

開催場所 : 桜美林大学 徳望館 3421教室

期 日 : 2002年5月25日(土) 受付開始 9:30

統一テーマ: 「21世紀の危機管理 in 桜美林」

10:00~10:30 会員総会 全体進行司会:樋口 修一郎(副会長)

【10:35~16:50 研究発表報告・パネルディスカッション】

【10:35~12:00 研究発表・報告(セッション1) 座長:村上 處直(防災都市計画研究所)  
】

10:35~10:45 危機管理教育実践分科会活動報告: 後藤 和廣(同分科会世話人)

第1報告 10:45~11:00

テーマ:横浜市大における「危機管理」に関する総合講座の開設から  
- その革新的改善課題を中心として -

報告者:佐々木 一郎(横浜市立大学)

第2報告 11:00~11:15

テーマ:情報セキュリティのコスト構造について

報告者:河路 武志(成蹊大学)

第3報告 11:15~11:30

テーマ:リスクマネジメントシステムの包括性、柔軟性と進化性について

報告者:坂 清次((株)三菱総合研究所)

第4報告 11:30~11:45

テーマ:統合型リスク・マネジメントと企業経営の関連性についての一考察

報告者:川上 昌直(福島大学)

11:45~12:00 問題提起及び質疑討論

12:00~12:15 アメリカにおけるリスクマネジメント教育について

- IEAとの業務提携 -

野田 節子(SGN Pacific Insurance Brokerage, Inc.)

12:15~13:00 休憩・昼食

【13：00～14：30 パネルディスカッション】

テーマ：

『 JIS Q2001(リスクマネジメントシステム構築のための指針)の企業経営に及ぼす影響』

コーディネーター： 指田 朝久（リスクマネジメント・システム研究分科会世話人）  
パネラー： 北澤 義博（新東京法律事務所）  
鈴木 敏正（(株)日本総合研究所）  
藪 孝雄（コクヨビジネスサービス(株)）  
吉川 賢一（JALインフォテック(株)）

【14：30～15：40研究発表・報告(セッション2)】 座長：高木 新太郎（成蹊大学）

第5報告 14：30～14：45

テーマ：リスクマネジメントシステム構築の実例 - テンプレートの活用 -  
報告者：鈴木 敏正（(株)日本総合研究所）

第6報告 14：45～15：00

テーマ：事業継続と企業のセーフティネット  
- リストラ被害と終身雇用制の再発見 -  
報告者：池内 正英（安全工学(株)）

第7報告 15：00～15：15

テーマ：東海地震発生後の企業行動に対する合意形成  
報告者：指田 朝久（東京海上リスクコンサルティング(株)）

15：15～15：30 問題提起及び質疑討論

15：30～15：40 休憩

【15：40～16：50 研究発表・報告(セッション3)】 座長：上野 治男（松下電器産業(株)）

15：40～15：50 リスク情報交流分科会活動報告： 鈴木 敏正（同分科会世話人）

第8報告 15：50～16：05

テーマ：危機管理へのシステム工学的なアプローチ（その2）  
- 危機のライフサイクルへのシステムの展開 -  
報告者：萬金 修一（(有)あけぼの）

第9報告 16：05～16：20

テーマ：化粧品の危機管理 - B S E 体験の一考察 -  
報告者：能崎 章輔（(株)井田ラボラトリーズ）

第10報告 16：20～16：35

テーマ：企業に根付くリスクマネジメント（RM）の取組み  
- 模索する現場よりの視点 -  
報告者：丹羽 巖（松下電器産業(株)）

16：35～16：50 問題提起及び質疑討論

## 4つ目の分科会をスタート

副会長 樋口修一郎

当学会も創立以来2年を経過。新年度(2002年度)の活動強化の一環として、新しい分科会「第4分科会：リスク事例サロン分科会」をスタートさせることになりました。

第1～第3分科会は、それぞれ多くの参加者を得て、活動を続け、実績を挙げつつあります。新年度スタートの第4分科会は、会員のどなたでも気楽に参加いただけるようソフトでサロンの場とし、世の中で起きたリスクに係る事象や事例をリスクマネジメントの視点で取り上げ、情報交換を行った。世の中の事象で将来顕在化するであろうリスクについての情報交換、企業や組織でのリスクマネジメント実践状況についての情報交換など、参加することそのものが「為になり、世の中を知れるサロン」を目指します。会員のみならずの積極的な参加を希望します。開催日程、具体的内容等は後日、あらためてご案内申し上げます。

代表世話人・連絡先：島田公一氏(常任理事)

あいおい損害保険株式会社 商品開発部 電話03(5789)7224

メールアドレス：[ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp](mailto:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp)

## 分 科 会 報 告

### 【危機管理教育実践分科会】

世話人：常任理事 後藤 和廣(MSK基礎研究所)

#### <活動報告>

2001年、当学会は、横浜市大と提携し後期総合講座を実施した。横浜市大より2002年も前年と同様、開催したい意向が示されたので、了解し今年も協力することにした。横浜市大より、各講師宛に、依頼状が直送されたが、学会側からも講師に声をかけた。今年度の講義内容は一部を除き昨年度とほぼ同じ講師で同じ内容で行われる。一部に変更箇所は今後調整を図ることにした。

A R M(Associate in Risk Management)の協力について調査し、A R Mの教育団体I E A(Insurance Educational Association)との提携を今後も検討することにした。A R Mはアメリカのリスクマネジメントの資格であり、アメリカにとどまらず世界的に認められた資格である。この資格の普及はリスクマネジメントを推進しようとする当学会の趣旨に添う。アメリカ在住の野田節子氏(Pacific Insurance Brokerage, Inc.社長)の努力で、I E Aが条件付きながら日本向けの講義を行うことになった。このため、I E Aとの提携について、野田節子氏を通じさらに詳細な詰めを行い、当学会が普及に貢献できるか検討することにした。

最近、大学でリスクマネジメントの授業の関心が高まっていることが報告された。ただし、関心が高まっているのは、伝統的な災害リスクのマネジメントではなく、事業リスクやコーポレート・ガバナンスの視点からのリスクマネジメントである。当学会でどの程度対応できるか今後検討していくことにした。

### 【リスクマネジメント・システム研究分科会】

世話人：常任理事 指田 朝久(東京海上リスクコンサルティング(株))

- 1.開催日時、場所：2002年1月30日水曜日 18時30分から21時まで、於 新東京法律事務所
- 2.出席者(15名)：徳谷、樋口、長井、北澤、小澤、坂、吉川、竹中、山口、横井、野村、福田、五味、指田、事務局永倉(順不同)

<第10回会活動報告>

今回の規格の検討はリスクマネジメントプログラムの策定について議論しました。これで原則2リスクマネジメント計画をひとつと終了しました。その後、今までの10回の研究会のまとめを5月の総会にむけて行うこととし、皆で分担して規格の解釈や個人の意見を整理する事となりました。意見は今日の出席者だけではなく、メーリングリストに参加している研究分科会のメンバーからも集約をいただくこととしました。分科会の終了後は新年会を実施しました。また、今回の研究会ではオブザーバーとして学生会員の五味さんが参加しました。これをきっかけに社会人だけではなく、学生の皆様も分科会など学会活動に参加をしていただければと思います。

<第11回会活動報告>

- 1.開催日時、場所：2002年2月20日水曜日 18時30分から21時まで、於 日立製作所本社
- 2.出席者(15名)：徳谷、樋口、長井、北澤、小澤、坂、吉川、山口、横井、村上、池内、中山、藪、指田、

事務局永倉(順不同)

今回は各自分担して作成した各規格のそれぞれのパートの集約のたたき台につき、各メンバーが意見を追加集約し、大会で提供できる資料作りを行いました。規格の冒頭から振り返りを行うと様々な議論がまたわき起こり、なかでも組織や方針のところは日本の現在の経営そのものの在り方とも関係したため熱い議論が繰り広げられました。日本の現在の経営の仕組みはリスクマネジメントに適さないため、規格をもとに理想的な経営のありかたを模索すべきという意見には皆うなずいていました。予定では1日で集約できるはずでしたが、熱い議論によりさらに分科会を実施することになりました。

次回は2002年3月4日月曜日 18時30分から日立製作所で実施します。

オピニオン

このたび、はじめてARIMASS第二分科会に参加させていただき、ありがとうございました。

私は、学生時代にRMは多少ですが勉強してまいりましたが、社会の第一線で実際に活躍されている諸先輩

のお話を聞かせていただき、大変興味深く勉強になりました。

最近の企業の行動をみていると、21世紀の社会にはリスクマネジメントがますます必要になり、当学会の

重要性が増すと思います。

また、学生会員の数はまだ少ないですが、さらに増えるようになればますます学会、そして社会の発展に寄与できると思います。私も、力不足ではありますが、当学会の発展に少しでも貢献できたらと思っています。これからもRMを学んでゆきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

学生会員 五味 昌樹(成蹊大学経済学部経営学科)

<広報・編集委員会だより・編集後記>

前号のARIMASS Letter 第7号で編集委員長辻純一郎氏よりご案内ありましたとおり、広報・編集

委員会が発足し、2月22日に第3回委員会を開催しました。辻委員長をはじめ、編集委員の各氏の他、ARIMASS Letter の編集発行の労をとっていただいております事務局の菊池さんが出席され、ARIMASS Letter 本号の編集内容の確認および今後の編集手続に関する意見の交換を行いました。今後は、編集委員会として他の分科会との連携を強化しつつ、企画立案に関し是非会員のみなさまの声を幅広く反映させていきたいと考えております。このため、みなさまからの ARIMASS Letter の企画案や原稿送付を大歓迎いたします。

本号は、第2回年次総会の案内号となりましたが、引き続き統一テーマは「21世紀の危機管理」となりました。前号巻頭言でも常任理事の島田公一氏が正に当研究学会の役割は一層重要性を増していると述べられているとおり、先端的な研究および人材育成を並行して追求していくことが、研究家と実務家がクロスオーバーする本学会に課せられた課題と考えます。このためには、会員の各位がその所属される組織の中で、危機管理システムに関する取り組みに注力されると共に、学生の方々や組織内の若手のみなさんへ積極的に本学会の活動内容をお伝えいただければと思います。

本年は、ARM(Associate in Risk Management)の教育内容の案内と実践もスタートする予定です。次代を担う若い世代がどんどん本研究学会へ入会されることを期待し、みなさまのご協力をお願いいたします。

連絡先：畑谷圭一氏（副編集委員長）

三井住友海上火災保険株式会社 火災新種保険部 電話03(3259)3474

メールアドレス：[k-hatatani@ms-ins.com](mailto:k-hatatani@ms-ins.com)

## 事務局からのお知らせ

### 1.分科会連絡先

第1分科会（教育実践）：世話人：後藤和廣

第2分科会（RMS）：世話人：指田朝久

第3分科会(情報交流)：世話人：鈴木敏正

第4分科会(リスク事例サロン分科会)：世話人：島田公一

### 2.新入会員紹介

氏名	所属機関・職名
能崎 章輔	(株)井田ラボラトリーズ
吉川 肇子	慶應義塾大学
井上 誠	小松エレクトロニクス(株)

### 3.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には、変更前と変更後を並記のうえ、必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒221-0052 横浜市神奈川区栄町 1-19-403

. 045-440-6778 FAX. 045-440-6777

e-mail：[arimass@muh.biglobe.ne.jp](mailto:arimass@muh.biglobe.ne.jp)

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

2002年3月22日発行

印刷 株式会社 櫻 栄 .03-3288-5571